

8 クモ類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

1. 三重県のクモ相

三重県は南北に細長く、北部は鈴鹿山脈などの山地から丘陵地、伊勢平野と続き、南部は台高山脈などの山地から直接海岸にいたる地形を呈しているが、最南部ではわずかな平地と礫浜海岸の続く地形となっている。そして、これらの山地からいくつもの河川が海に流れ込んでいる。海岸線を見ても、北部の砂浜海岸、南部のリアス海岸や礫浜海岸等多様である。石灰岩の地層も各地に分布し、鍾乳洞を形成し、洞窟性の種を育てている。また、緯度の違い、標高の違いが気温の変化をもたらし、南方系の種、北方系の種がみられるなど県内の多様な環境を形作っている。

クモ類は種によりその生息環境も樹上、樹間、地表、落ち葉層、地中、草原、河川溪流、湿地、人工構造物等々多様で、自然環境下はもとより人工物の多い都市環境においても、それぞれの種がその微環境に適応して様々なところに生息している。

クモ類は現在世界で 52,000 種余が記録されており (World Spider Catalog. 2024) 年々その数が増えている。日本では約 1,700 種が記録されている (谷川明男. 2024)。県内ではこれまで (2022 年 5 月 31 日現在) に 598 種が記録されていた (貝發憲治. 2022) が、その後 10 種が追加され (Kumada, K. 2022, 熊田憲一 2023, Kumada, K. and Ono, H. 2023, 塩崎哲哉. 2023), 2024 年 3 月 25 日現在では 608 種となっている、この数は県別に見たとき、全国でもトップクラスである。前回のレッドリストの改訂時に三重県で記録されていたクモ類は 534 種であるから、この 10 年間で 70 余種のクモが新たに三重県のファウナに付け加えられたことになる。これらのことは県内の多様な環境を反映したものと考えられ、今後調査がすすむにつれ、三重県のクモ相に付け加わる種も増えるものと予想される。

クモ類の生態的位置を見たときに、昆虫類などの捕食者として、また、鳥や爬虫類などの小動物の餌となるなど、中間捕食者として生態系の中で重要な位置を占めている。これらのことから、多様なクモ類が多く生息する環境は、餌となる昆虫類が豊富であるということ、そしてクモを餌とする多くの小動物を養っているということの意味し、豊かな自然環境を有しているということがいえる。

2. 調査内容と結果

前回の調査以降新たに三重県のクモ相に加わったものが約 70 種あるが、一度さりの記録も多い。多くのクモでその生態や生活史が解明されておらず、また、クモには空中飛行によって分布を広げる (バルーニング) 種があり、新たに三重県のクモ相に加わったこれらのクモが確実に県内に定着しているかの判断がむづかしく、生息場所が洞窟等特殊な環境に依存するものを除いて今回の候補種からは除外した。

選定の基準としては前回は踏襲し、次のとおりとした。

1. 生息環境が極めて限定されており、その生息環境がなくなれば即絶滅する恐れの高い種
2. 分布域は比較的広いが、生息に適した環境が限られており、その環境がなくなれば絶滅する恐れの高い種
3. 以前は身近でよく目にすることができたが、近年観察される機会が著しく減少している種

その結果、今回の改訂にあたっては、前回のリスト掲載種 27 種に加えて、特に洞窟環境に依存するオオミヤナミハグモとシママシラグモ、海岸の岩場に生息するシママシラグモを追加して計 30 種を中心に調査を行った。クモ類については、その生態により採集が困難なものも多く、採集されなかったからといってその種がそこにいないということはいえない。そのことを念頭に置きながら、当該種について、野外での現況調査を行うとともに、あわせて文献調査、標本調査を行い、当該種の現況を把握することに努めた。特に三重クモ談話会が定期的実施している採集会の記録などの文献の記録および個人調査に基づく標本の記録 (未発表のもの) を参考にし、前回以降の当該種の現況を推し量った。これらの結果、新たな生息地の発見に至るものもあれば、既産地でありながら今回の調査で生息が確認できなかった種、長期間にわたり一度も採集されていない種も見られた。

3. 絶滅危惧種の概要

調査結果および前回以降の採集記録等をもとにチェックシートを活用するとともに、調査員の判断も加えてカテゴリーの決定を行った。クモ類については定量的な調査は難しく、調査員の判断においては、環境への依存性 (特殊な環境、例えば洞窟など)、分布拡大の方法 (バルーニングをするかどうか)、前回以降の採集記録の推移、生息環境の状況など定性的な条件を考慮した。その結果、新たにリストに加えたものが 3 種、前回と比べてカテゴリーが変更されたものが 14 種、変わらないものが 13 種であった。変更されたもののう

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ち LC と判断したものが4種, リストから除外したものが1種であった。
新たにリストに加えたものの内2種 (シママシラグモ, オオミヤナミハグモ) は三重県をタイプロカリティとするクモで, 洞窟という限られた環境に生息している。これまでのところそれぞれ一か所の洞窟からしか生息が確認されておらず, その洞窟の環境が変われば即絶滅することが懸念される種である。もう一種 (シママシラグモ) は海岸の岩場の隙間等に住居を構え生息する種で, 確認された生息場所も少なく, 護岸工事等による絶滅が危惧される種である。
カテゴリーが変更された内の2種 (カネコトタテグモ, ホシヒメグモモドキ) は, 長年にわたり採集記録がない種で, カネコトタテグモは 2006 年以降, ホシヒメグモモドキは 2003 年以降県内における採集記録がないため (貝發憲治 2017, 貝發憲治・塩崎哲哉 2018), カネコトタテグモは VU から EN に, ホシヒメグモモドキは DD から NT に変更した。カネコトタテグモは地中性のクモで, 発見が困難であることも原因として考えられる。ホシヒメグモモドキは南方系の種で, 全国的にも採集例の少ない種であり, 今後のさらなる調査が必要である。
カテゴリーが下がった種は, 前回以降の採集記録等を見たとき, 継続して採集されていたり, 新たな生息地が確認されたりしたものである。そのうち, LC と判断した4種 (アケボノユウレイグモ, ニシキオニグモ, オニグモ, コガネグモ) は前回以降の採集記録やその生息環境を考えたとき, 近い将来絶滅するという懸念がないと判断した。しかし, これらの中には, コガネグモやオニグモのように特に市街地において近年その数を減らしてきているものもある。これらについては, その生息環境を保全する中で, 注意深く今後の推移を見守っていくことが必要であろう。
リストから除外した種 (ツユグモ) については, これまでにその採集記録が1回しかなく, 確実にそこに定着していたというよりは, 偶産であろうとの判断である。
なお, 科・種に関する和名及び学名については谷川明男 (2024) に準拠した。

保護対策

森林開発や森林伐採は造網性のクモ類にとっての生息場所を奪うことになり, また, 近年のシカによる林床植生の荒廃とあわせて, 地表面の乾燥化等により地表やリター層に生息するクモ類への影響が大きい。また, 地表面の舗装やがけ地のコンクリート化等は地中性クモ類の生息にとって脅威である。これら以外にも, 湿地帯や海岸, 草原等の開発はこれら環境に依存するクモ類に大きな影響を及ぼす。洞穴に生息する種についてはその環境変化によって即絶滅につながる恐れが強く, 十分な注意が必要である。また, 農薬散布等は, クモ類に直接影響を及ぼすとともに, 餌昆虫の減少をもたらしくモ類の生息に影響を及ぼす。
このように, クモ類は種ごとの環境依存性が高いため, その保護については, 種そのものの保護だけではなくその生息環境を保全することが大切である。

文献

貝發憲治. 2017. 雲隠れたホシヒメグモモドキ. しのびぐも, (44) : 11-13
貝發憲治. 2022. 三重県産クモ類目録 (IV). しのびぐも, (49) : 45-64
貝發憲治・塩崎哲哉. 2018. みえ生物誌クモ類. 三重自然誌の会, 三重県, 294pp.
熊田憲一. 2023. 三重県で2023年4月までに採集した未記録種の報告.しのびぐも, (50) : 4-7
Kumada, K. 2022. New records of *Thanatus vulgaris* Simon 1870 (Araneae : Philodromidae) from Japan. Acta Arachnologica, 71 (2) : 157-159
Kumada, K. and Ono, H. 2023. New Records of *Chikunia subrapulum* (Zhu, 1998), n. comb., (Araneae : Theridiidae) from Japan, with Taxonomical and Nomenclatural Notes. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 49 (4) : 123-127
塩崎哲哉. 2023. 三重県におけるモリメキリグモの記録. しのびぐも, (50): 1-2
谷川明男. 2024. 日本産クモ類目録 ver.2024 R1. <http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf> (2024年8月参照)
World Spider Catalog. 2024. World Spider Catalog. Version 25.5. <http://wsc.nmbe.ch> (2024年8月参照)

(塩崎哲哉)

除外種

「三重県レッドデータブック 2015」掲載種のうち、今回の改訂により低懸念（LC）と判定された種、及び評価対象から除外した種とその理由は以下のとおりである。

新レッドリストで低懸念（LC）となった種

科名	和名	学名	三重県		環境省	判定理由
			新	旧		
ユウレイグモ科	アケボノユウレイグモ	<i>Belisana akebona</i>	LC	NT	—	新たな生息確認地点が増えた。
コガネグモ科	ニシキオニグモ	<i>Araneus variegatus</i>	LC	DD	—	新たな生息確認地点が増えた。
コガネグモ科	オニグモ	<i>Araneus ventricosus</i>	LC	NT	—	県内に広く分布し、新たな生息地も確認。
コガネグモ科	コガネグモ	<i>Argiope amoena</i>	LC	NT	—	県内に広く分布し、新たな生息地も確認。

新レッドリストで評価対象から除外した種

科名	和名	学名	三重県		環境省	除外理由
			新	旧		
アシダカグモ科	ツユグモ	<i>Micrommata virescens</i>	除外	CR	—	過去1度きりの記録であり、偶産種であると判断。

クモ類レッドリスト

科名	和名	学名	三重県		環境省	掲載頁
			新	旧		
マシラグモ科	シママシラグモ	<i>Falcileptoneta inagakii</i>	CR	—	—	337
ホラヒメグモ科	シュウレイホラヒメグモ	<i>Nesticus shureiensis</i>	CR	CR	—	337
ナミハグモ科	オオミヤナミハグモ	<i>Cybaeus inagakii</i>	CR	—	—	337
カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ	<i>Antrodiaetus roretzi</i>	EN	VU	NT	338
トタテグモ科	キシノウエトタテグモ	<i>Latouchia typica</i>	EN	EN	NT	338
エンマグモ科	シマミヤグモ	<i>Ariadna insulicola</i>	EN	—	—	338
ホラヒメグモ科	スズカホラヒメグモ	<i>Nesticus suzuka</i>	EN	EN	—	339
ハウシグモ科	ドウシグモ	<i>Asceua japonica</i>	VU	VU	DD	339
ジグモ科	ワスレナグモ	<i>Calommata signata</i>	NT	NT	NT	339
トタテグモ科	キノボリトタテグモ	<i>Conothele fragaria</i>	NT	NT	NT	340
ヒメグモ科	ホシヒメグモモドキ	<i>Theridula gonygaster</i>	NT	DD	—	340

哺乳類	コガネグモ科	キヌアミグモ	<i>Cyrtophora exanthematica</i>	NT	VU	—	340
鳥類	コガネグモ科	トゲグモ	<i>Gasteracantha kuhli</i>	NT	VU	—	341
爬虫類	アシナガグモ科	サンロウドヨウグモ	<i>Meta japonica</i>	NT	NT	—	341
両生類	アシナガグモ科	チビクロドヨウグモ	<i>Meta nigridorsalis</i>	NT	VU	—	341
汽水・淡水魚類	ホラヒメグモ科	ヤマトホラヒメグモ	<i>Nesticus yamato</i>	NT	VU	—	342
昆虫類	ササグモ科	シマササグモ	<i>Oxyopes macilentus</i>	NT	NT	—	342
クモ類	サシアシグモ科	シノビグモ	<i>Shinobius orientalis</i>	NT	NT	—	342
貝類	コガネグモ科	キジロオヒキグモ	<i>Arachnura logio</i>	DD	DD	—	343
甲殻類	コモリグモ科	カワベコモリグモ	<i>Arctosa kawabe</i>	DD	DD	—	343
その他動物	コモリグモ科	イサゴコモリグモ	<i>Pardosa isago</i>	DD	NT	—	343
維管束植物	カニグモ科	アシナガカニグモ	<i>Heriaeus mellottei</i>	DD	NT	—	343
蘚苔類	イツツグモ科	ナガイツツグモ	<i>Anyphaena ayshides</i>	DD	DD	—	343
藻類	ハチグモ科	オビジガバチグモ	<i>Castianeira shaxianensis</i>	DD	DD	—	343
キノコ	アワセグモ科	アワセグモ	<i>Selenops bursarius</i>	DD	NT	—	343

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シママシラグモ

クモ目 マシラグモ科

Falcileptoneta inagakii Irie & Ono 2011

【選定理由】既知の生息地点数は1である。特殊な環境（洞窟）に生息する種で、既知の生息地以外での記録がない。

【種概要】体長は雄1.5 mm（雌は未発見）。6眼のクモで、本科のクモはその配列で特徴づけられる。マシラグモ科のクモは国内で40種以上知られており、同定は触肢の特徴で判断できる。洞窟で発見されたが地表性のクモと考えられている。

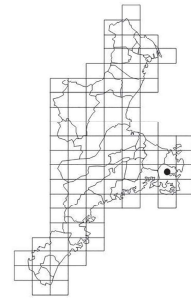
【分布】本州（三重県）。志摩市磯部町の洞窟からのみ確認されている。

【現況・減少要因】既生息地以外での記録がない。2009年に初めて確認されて以降、追加記録もない。

【保護対策】生息地の洞窟の保全及び周辺も含めた環境の悪化を防ぐべきである。また、生息状況の解明が必要である。

【文献】18.

(加藤修朗)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

シュウレイホラヒメグモ

クモ目 ホラヒメグモ科

Nesticus shureiensis Yaginuma 1980

【選定理由】既知の生息地点数は1である。特殊な環境（洞窟）に生息する。既知1地点以外から未だ記録がない。

【種概要】体長は雌 5.7 mm, 雄 4.3 mm 前後。腹部は球形で、赤褐色、褐色の斑紋がある。洞窟内の隙間や岩陰に不規則網を張る。鷲嶺の水穴（伊勢市）を模式産地として新種記載された。

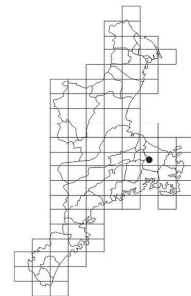
【分布】本州（三重県）。伊勢市鷲嶺の水穴からのみ確認されている。

【現況・減少要因】2003年12月に実施した鷲嶺の水穴の調査で洞内中央部の岩棚の下や窪み、小穴に造網しているのが確認され、その後2012年、2023年の調査においても生息が確認されている。伊勢館町でも記録されているが、幼体のため検討対象から除外した。洞内の環境悪化が直接生息に影響を与える。

【保護対策】周辺環境の現状維持（クモは捕食性のため餌となる小昆虫等の生息が絶対条件となる）とともに、洞口や洞内でのたき火や松明などの火気による煙害や破壊改変等の洞内環境の悪化を防止する。また、周辺の洞窟群の調査が急がれる。

【文献】11, 24, 59, 73, 78, 112, 130, 131, 132.

(熊田憲一)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオミヤナミハグモ

クモ目 ナミハグモ科

Cybaeus inagakii Ono 2008

【選定理由】既知の生息地点数は1である。特殊な環境（洞窟）に生息する種で、既知の生息地以外での記録がない。

【種概要】体長は雌 4.4 ~ 5.1 mm, 雄 4.1 ~ 5.2 mm. 類似種が多く、同定には注意が必要である。雄は触肢と牙堤歯の数で雌は外雌器で他種と区別できる。ナミハグモ科は通常8眼の種が多いが、当種は6眼に退化している。本種は洞窟から記録されているが、洞外の落ち葉や岩の下から採集される可能性もある。

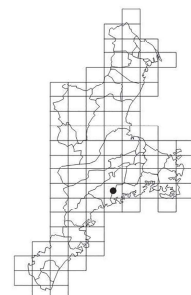
【分布】本州（三重県）。大紀町の洞窟からのみ確認されている。

【現況・減少要因】既生息地以外での記録がない。2008年に初めて確認されて以降、追加記録もない。

【保護対策】生息地の洞窟の保全及び周辺も含めた環境の悪化を防ぐべきである。また、生息状況の解明が必要である。

【文献】87.

(加藤修朗)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

カネコトタテグモ

クモ目 カネコトタテグモ科

Antrodiaetus roretzi (L. Koch 1878)

【選定理由】既知の生息地点が10を超えているが、点状的分布である。特殊な環境（地中に巣穴を造る）に生息する。2006年以降採集記録がないためVUからENへカテゴリーを変更した。

【種概要】体長は雌12～18mm、雄10～13mm、崖地や林床に穴を掘って住居をつくる。入口には両開きの扉をつける。夜間の捕食時以外扉は閉まっており、その状態では周囲との区別がつきにくく、発見は難しい。

【分布】本州（東北から近畿）。県内ではいなべ市から大紀町にかけて記録されている。平地から山地まで分布するが、確認地点は少ない。

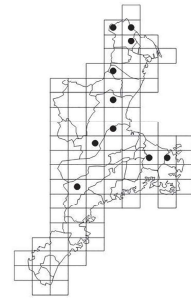
【現況・減少要因】林縁や林道沿いのあまり日の当たらない小規模な崖地や神社の境内などで確認されている。発見の困難さから、今回既知地点での再確認及び新規生息地の確認は出来なかった。開発等による生息地の破壊、また地中に住居を作る特殊性から、森林伐採による林床の乾燥化の強い影響を受ける。

【保護対策】生息状況が特殊なため確認は難しいが、生息域の解明が必要である。生息地の保全として、広範な伐採や必要以上の崖地のコンクリート化を抑制する。

【文献】9, 21, 22, 53, 71, 92, 94, 102, 116, 126, 133.

(熊田憲一)

(写真：鈴鹿市，2004年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

キシノウエトタテグモ

クモ目 トタテグモ科

Latouchia typica (Kishida 1913)

【選定理由】既知の生息地点数は僅かに5を越えるが、点状的分布で特殊な環境に生息する。

【種概要】体長雌12～20mm、雄10～15mm。全体紫褐色で腹部背面に対になった白黄の横縞がある。地中に管状の住居を造り、入口に片開きの扉をつける。扉のすぐ内側にいて前を通る小動物を捕らえる。雄は秋季に雌の巣を訪れ交配する。クモタケに寄生されることがある。

【分布】本州南部、四国、九州に分布する。北限は山形県。県内では、四日市市、津市、伊賀市、伊勢市、菰野町で記録されている。

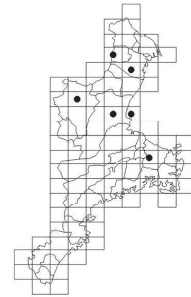
【現況・減少要因】都市部の比較的明るい場所に多い。道路脇の石垣や崖地、公園、緑地等、市街地に生息する地中性のクモである。土壌の乾燥化、崖地の工事や道路改修による破壊、コンクリート補強等の影響を受けて激減しやすく、都市化が進むことにより減少の可能性がある。

【保護対策】地中に穴を掘って住居を作るため、現在の生息環境を保持する。また、必要以上の崖地のコンクリート化を抑制する。

【文献】8, 9, 15, 32, 42, 44, 52, 53, 58, 78, 112.

(貝發憲治)

(写真：伊賀市，2022年，塩崎哲哉撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

シマミヤグモ

クモ目 エンマグモ科

Ariadna insulicola Yaginuma 1967

【選定理由】既知の生息地点数は5以下である。海岸の岩崖地等に限定的に生息する環境依存種。

【種概要】体長は雌6～7mm、雄5～6mm。体は細長く、赤褐色をしている。海岸性の種で、海岸線やごく近い場所のみ生息する。海岸の岩の割れ目や隙間、岩の間に袋状の住居をつくる。

【分布】本州・四国・九州。三重では南伊勢町と尾鷲市の海岸から記録されている。

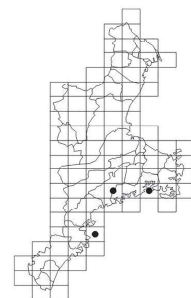
【現況・減少要因】南伊勢町では同じ岩の崖地で生息が再確認されている。県内には海岸崖は多いが、これまでのところ既知の場所以外からの確認は出来ない。海岸の護岸などで環境が破壊されると生息できなくなる。

【保護対策】自然な海岸崖の維持。

【文献】78, 105.

(熊田憲一)

(写真：和歌山県，2014年，塩崎哲哉撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

スズカホラヒメグモ

クモ目 ホラヒメグモ科

Nesticus suzuka Yaginuma 1979

【選定理由】 既知の生息地点数は5以下である。特殊な環境（洞窟）に生息する。

【種概要】 体長は雌 5.6 mm, 雄 5.3 mm 前後。腹部は球形で、赤褐色、褐色の斑紋がある。洞窟内の隙間や岩陰に不規則網を張る。篠立の風穴(いなべ市)を模式産地として新種記載された。

【分布】 本州（三重県・滋賀県・岐阜県）。三重県から滋賀県・岐阜県にかけての石灰鍾乳洞群に限定的に分布する。県内ではいなべ市藤原町と鈴鹿市の鈴鹿山地にある鍾乳洞から確認されている。

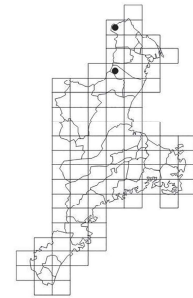
【現況・減少要因】 2か所の鍾乳洞から2023年の調査でも確認され、安定的に生息していることが確認された。石大神の風穴（鈴鹿市）からの記録もあるが、石灰石採掘のため洞窟が消失した。洞窟の破壊や洞内環境の悪化による消滅、減少が考えられる。

【保護対策】 石灰石採掘等による鍾乳洞などの破壊防止や周辺環境の保護、洞内環境の保全を行う。

【文献】 3, 48, 59, 84, 94, 110, 129, 132.

(熊田憲一)

(写真：いなべ市，2023年，塩崎哲哉撮影)



三重県 2025	EN
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

ドウシグモ

クモ目 ホウシグモ科

Asceua japonica (Bösenberg & Strand 1906)

【選定理由】 既知の生息地点は5以下であり、個体数も少ない。

【種概要】 体長雌雄 3～4 mmの徘徊性のクモで、カシ、サクラ、クスなどの樹皮上や、神社、寺院の石灯籠からも確認される。老木の樹皮下に袋状の住居を作る。アリを主に捕食する。日本固有種。

【分布】 本州（関東以南）・四国・九州・沖縄。県内では、桑名市、津市、伊勢市、熊野市から確認されている。

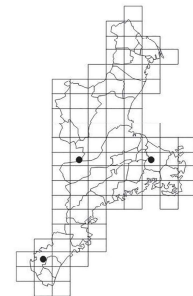
【現況・減少要因】 今回の調査では新規生息地は認められなかった。生息する社寺林や老木の減少することによる影響が考えられる。

【保護対策】 生息環境に配慮した計画的な伐採と植樹が必要である。

【文献】 4, 7, 9, 49, 53.

(熊田憲一)

(写真：高知県，2015年，塩崎哲哉撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	DD

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ワスレナグモ

クモ目 ジグモ科

Calommata signata Karsch 1879

【選定理由】 既知の生息地点数は10以上である。地中に穴を掘って住居とする特殊な生態を持つ。

【種概要】 体長は雌 15～18 mm, 雄 6～8 mm。草地や畑、建物の土台付近の主に平らな土地の地中に巣穴を作って生息する。入口に扉はなく、内幕の糸を使って巣口をふさぐ。夜間、巣口に顔を出して近づく虫などを捕食する。

【分布】 本州・四国・九州。県内では県北部から南部まで確認されている。分布域は広いが、確認されることは稀である。山里から市街地にかけてみられる。

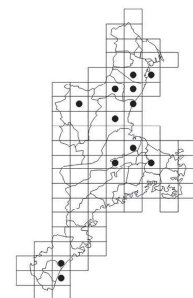
【現況・減少要因】 神社や城址など、比較的土壌の安定した場所から確認されるほか、畑地や放棄耕作地からも確認された。地中に住居をつくる特殊性から、建物周辺地面のコンクリート化や草地などへの薬剤散布が強く影響する。

【保護対策】 生息が確認されている場所の環境保全、除草剤や殺虫剤散布の軽減が必要である。

【文献】 1, 14, 36, 40, 46, 54, 55, 57, 58, 80, 99, 106, 112, 124.

(熊田憲一)

(写真：御浜町，2022年，塩崎哲哉撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キノボリトタテグモ

クモ目 トタテグモ科

Conothele fragaria (Döntiz 1887)

【選定理由】県内各地から記録されているが、生息数は少ない。樹皮上等に住居を作る特異な生態を持ち、環境依存性が高いため開発圧力に脆弱である。

【種概要】体長雌 10～11 mm, 雄 6～8 mm. 全体黒色。社寺林の古木や岩上に営巣することが多く、2～3 cm の片開き扉のある袋状の住居をつくる。日本固有種。

【分布】本州（東北地方を除く）以南。県内では全域から記録がある。

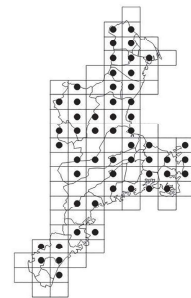
【現況・減少要因】県下に広く生息するが、樹木の伐採等による営巣環境の喪失や周辺環境の開発等による乾燥化等の影響を受けやすく、減少要因として考えられる。移動能力が低く、一度環境が喪失すると回復が難しい。

【保護対策】社寺林等においては周辺も含めた環境の保全が重要で、樹木の伐採や開発等には注意を払う必要がある。

【文献】9, 11, 12, 13, 15, 21, 23, 26, 27, 31, 33, 35, 37, 43, 45, 49, 52, 53, 55, 56, 58, 61, 62, 63, 64, 65, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 74, 75, 76, 79, 82, 83, 85, 86, 91, 92, 93, 94, 95, 98, 100, 101, 102, 106, 108, 109, 111, 112, 114, 116, 120, 125.

(武藤茂忠)

(写真：松阪市，2003年，塩崎哲哉撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ホシヒメグモモドキ

クモ目 ヒメグモ科

Theridula gonygaster (Simon 1873)

【選定理由】既知の生息地点数は10以下である。2003年以後採集記録がなく、また、全国的にもほとんど記録がないことから、DDからNTにカテゴリーを変更した。

【種概要】体長雌 2～2.5 mm, 雄 1.5～2.5 mm の小型のクモ。黒褐色の地色で雌は背面に2対または5個の大きな白または黄の点斑がある。里山から山地の林縁に生息し、不規則網を張る。白色球形の卵のうを1個造り見守る。1971年に熊野市から日本で最初に発見された。

【分布】本州南部、四国、九州、南西諸島。県内では津市、松阪市、多気町、大台町、大紀町、尾鷲市、熊野市。県南部での記録が多い。

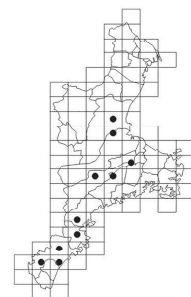
【現況・減少要因】樹林地周辺の林道などの樹木の葉裏、草原、シダの葉裏で見られる。南方系のクモでもともと採集個体数は少なく、近年は全国的に記録がない。減少傾向については環境変化等が考えられるが、特定できない。

【保護対策】樹林地周辺の生息環境の保全を図るとともに、生活史の解明が必要である。

【文献】22, 27, 31, 73, 91, 101, 134, 135.

(貝發憲治)

(写真：大紀町，1984年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

キヌアミグモ

クモ目 コガネグモ科

Cyrtophora exanthematica (Doleschall 1859)

【選定理由】既知の生息地点数は10以下であり、記録個体数も少ない。分布も県南部と限られている。生息地においては継続して観察できており、また新しい生息地も確認されたため、VUからNTにカテゴリーを変更した。

【種概要】体長は雌 9～11 mm, 雄 3～4 mm. 日当たりのよい樹木の枝葉間に、網目が方形をしたシート状の網（絹網）を水平に張る。

【分布】南方系のクモで本州（静岡県以南）から四国、九州、南西諸島に分布する。県内では、熊野市、御浜町、紀宝町など紀南地方のみで記録されている。山裾の柑橘類の畑やその周辺に生息していることが多い。

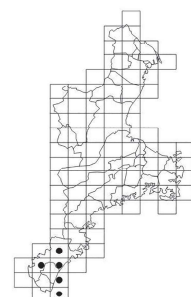
【現況・減少要因】記録個体数も少なく、減少要因については特定できていない。耕作放棄された柑橘類の畑で観察されることが多く、農薬の散布等がその減少に影響している可能性もある。

【保護対策】減少要因が十分に解明されていないため、具体的な保護対策は明らかでないが、減農薬等の取り組みが必要と考えられる。また、生活史を含めた生態調査が必要である。

【文献】49, 69, 78, 98, 101, 106, 113.

(塩崎哲哉)

(写真：御浜町，2017年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

トゲグモ

クモ目 コガネグモ科

Gasteracantha kuhli C. L. Koch 1837

【選定理由】既知の生息地点数は10を超え、新たな生息地が確認されるなどしており、VUからNTにカテゴリーを変更した。

【種概要】体長は雌7～8mm、雄3～4mm。腹部背面は黒色で白色の斑紋を持ち、キチン化して硬く、3対の黒色の棘を持っている。山地林内の樹間の比較的高いところに垂直円網を張る。山間部の林内に局地的に集中して生息する傾向がある。

【分布】本州、四国、九州に分布する。県内では津市、伊賀市、伊勢市、熊野市、大台町、大紀町などの主に山間地で記録されている。

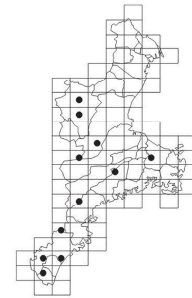
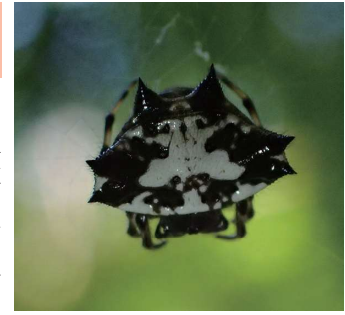
【現況・減少要因】減少要因は特定できていないが、かつて、生息地における林道改修で、一時的ではあったが生息が確認できないことがあった。生息環境の改変が影響を与えるものと考えられる。

【保護対策】生息環境を保護することが重要である。森林伐採等においても皆伐を避ける等、環境の急激な改変を回避する工夫が必要である。

【文献】4, 5, 11, 17, 20, 29, 38, 97, 112, 123, 124.

(塩崎哲哉)

(写真：熊野市，2023年)



三重県 2025	NT
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

サンロウドヨウグモ

クモ目 アシナガグモ科

Meta japonica Tanikawa 1993

【選定理由】既知の生息地点数は5以下である。特殊な環境（洞窟・暗所）に生息する。

【種概要】体長は雌12～14mm、雄9～11mm。主に洞窟から確認されることが多いが、標高の高い地域の岩陰などの暗所からも確認されることがある。25cmほどの円網を張る、好洞窟・好暗所性の大型造網性種。

【分布】北海道・本州・四国・九州。県内においては松阪市飯高町の標高1,000m程の洞窟類似環境と大台町大杉の1,000mを超える地点の浅い洞窟から記録されている。

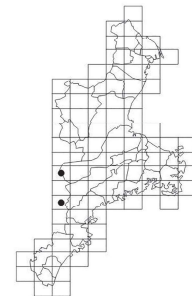
【現況・減少要因】現在確認されている2地点のみの確認となっている。飯高町のポイントは後の出水で谷が崩壊し、現状は確認できていない。生息地の改変や破壊などの環境悪化による減少消滅が考えられる。

【保護対策】生息場所の保持保全と周囲環境の維持が必要である。雌雄と卵のうが確認されていることから、周辺と同じ環境で生息している可能性があると考えられ、今後の調査が急がれる。

【文献】50, 103.

(熊田憲一)

(写真：大台町，2006年，塩崎哲哉撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

チビクロドヨウグモ

クモ目 アシナガグモ科

Meta nigridorsalis Tanikawa 1994

【選定理由】既知の生息地点数は10以下である。生息地点数が増加したためVUからNTにカテゴリーを変更した。特定環境依存型好暗性種。

【種概要】体長は雌5.0～6.6mm、雄4.5～5.0mm。直接目の当たらない林内の、比較的大きな岩の隙間や物陰に20cmほどの水平～斜めの円網を張る。熊野市を模式産地として新種記載された。

【分布】本州（静岡県以南）・四国・九州。県内では朝日町、四日市市、尾鷲市3か所、熊野市から確認されている。

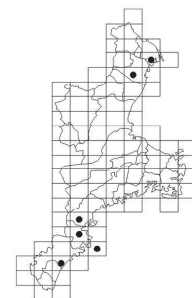
【現況・減少要因】1993年に発見された熊野市井戸町の模式産地は、1998年の道路拡張整備で消滅し、その後の周辺調査でも生息は確認されていない。しかし尾鷲では新たな生息地が報告され、県北部朝日町からも確認され広範分布が示唆された。暗所の岩の間や林内の物陰の低い位置に造網するが、確認地点は少ない。類似環境として洞窟があるが、県内の洞窟からの記録はない。生息場所および周辺環境の悪化、特に井戸町のように生息場所が消滅することは影響が特に大きい。

【保護対策】生息状況の把握が急がれる。生息地および暗所をつくる林などの周辺環境の保全をはかる。

【文献】73, 78, 104, 107, 112, 118.

(熊田憲一)

(写真：尾鷲市，2012年，塩崎哲哉撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤマトホラヒメグモ

Nesticus yamato Yaginuma 1979

クモ目 ホラヒメグモ科

【選定理由】既知の生息地点は5以下である。生息地点数が増加したためVUからNTにカテゴリーを変更した。特殊な環境（洞窟等）に生息する。

【種概要】体長は雌 4.9 mm, 雄 4.8 mm 前後。腹部は球形で、赤褐色、褐色の斑紋がある。洞窟内の隙間や岩陰に不規則網を張る。洞窟外でも暗い溪流の大岩の隙間など類似環境からごく稀に記録される。県内でこの属のクモは3種記録されている。形態及び斑紋は非常に似ているが、各洞窟群で種の分化が見られる。

【分布】三重県・奈良県・和歌山県の石灰鍾乳洞群及び周辺に限定的に分布する。県内では大台町宮川と大紀町大宮の鍾乳洞、名張市の洞窟からと、津市美杉町の溪流から知られていたが、新たに紀北町相賀の隧道内から確認された。

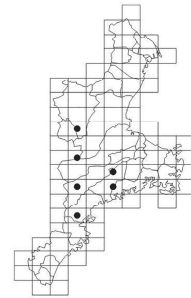
【現況・減少要因】生息する鍾乳洞では2023年現在安定的に確認されているほか、新たな記録地を得た。鍾乳洞や洞窟の破壊や洞内環境の悪化が減少要因となる。

【保護対策】周辺環境の現状維持と共に火気の持ち込みや破壊等による洞内改変をしない。洞窟以外では出来る限り現状を維持する。

【文献】16, 19, 27, 28, 29, 48, 73, 112, 119, 132.

(熊田憲一)

(写真：大台町，2022年，塩崎哲哉撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

シマササグモ

Oxyopes macilentus L. Koch 1878

クモ目 ササグモ科

【選定理由】既知の生息地点数は10以下であり、記録個体数も少ない。

【種概要】雌 9～13 mm, 雄 8～10 mm. 草間などを徘徊している。

【分布】南方系のクモで、本州（千葉県，三重県，和歌山県），四国のおもに太平洋岸および九州，南西諸島で記録されている。県内での記録は少なく伊勢市，尾鷲市，熊野市，御浜町など県南部での記録が多い。これまで三重県が分布の北限であったが，近年千葉県でも記録された。

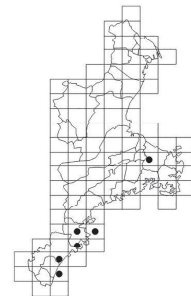
【現況・減少要因】記録個体数が少なく，減少要因については特定できない。分布の北限に近いこともあり，もともと生息数が少ないことも考えられる。

【保護対策】生息環境の保全とともに，生活史を含めた生態調査や分布状況の調査が必要である。

【文献】4, 12, 69, 73, 78, 101.

(塩崎哲哉)

(写真：沖縄県，2017年)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

シノビグモ

Shinobius orientalis (Yaginuma 1967)

クモ目 サシアシグモ科

【選定理由】県内各地から記録されているが，山地の溪流沿い等の限定された環境にのみ生息する。

【種概要】体長雌雄とも 6～8 mmで，黒褐色の腹背に特有の対斑がある。溪流付近の水辺や直射日光の当たらない湿気の多い下草や石間に潜み，水際を徘徊する。1965年，津市美杉町の溪流で採集され新種記載された日本固有種。1科1属1種。

【分布】全国各地から記録されている。県内では，いなべ市から熊野市にかけて各地で記録されている。

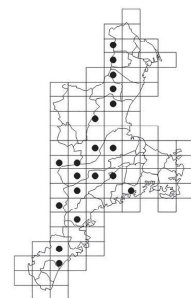
【現況・減少要因】溪流周辺等で見られる。継続調査で確認された生息地点数が増えてきている。河川工事，樹木の伐採等による環境変化が生息に大きく影響する。

【保護対策】溪流の自然環境の保護が大切で，治水・河川工事，ダム建設，樹木の伐採等に配慮が必要である。

【文献】7, 25, 26, 27, 31, 35, 43, 49, 52, 56, 61, 62, 67, 72, 73, 89, 90, 92, 94, 101, 103, 112, 128, 132.

(橋本理市)

(写真：津市，2003年，貝發憲治撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

キジロオヒキグモ <i>Arachnura logio</i> Yaginuma 1956	クモ目 コガネグモ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
---	------------	----------------	----------------	---------------

5市1町で記録されているが、記録個体数は少なく、生息実態が十分に解明されていない。
【文献】2, 4, 6, 9, 17, 38, 47, 53, 112, 117, 120, 127.

(塩崎哲哉)

カワベコモリグモ <i>Arctosa kawabe</i> Tanaka 1985	クモ目 コモリグモ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	------------	----------------	----------------	---------------

2市3町で記録されているが、記録個体数は少なく、生息実態が十分に解明されていない。
【文献】34, 67, 96, 103.

(塩崎哲哉)

イサゴコモリグモ <i>Pardosa isago</i> Tanaka 1977	クモ目 コモリグモ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 NT	環境省 2020 —
---	------------	----------------	----------------	---------------

4市2町で記録されているが、記録個体数は少なく、生息実態のさらなる解明が必要である。
【文献】10, 33, 44, 77, 121, 122.

(塩崎哲哉)

アシナガカニグモ <i>Heriaeus mellotteei</i> Simon 1886	クモ目 カニグモ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 NT	環境省 2020 —
--	-----------	----------------	----------------	---------------

7市1町で記録されているが、記録個体数は少なく、生息実態のさらなる解明が必要である。
【文献】1, 11, 28, 30, 31, 33, 41, 56, 60, 66, 73, 74, 77, 81, 93.

(塩崎哲哉)

ナガイヅツグモ <i>Anyphaena ayshides</i> Yaginuma 1958	クモ目 イヅツグモ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
---	------------	----------------	----------------	---------------

7市で記録されているが、記録個体数は少なく、生息実態が十分に解明されていない。
【文献】9, 28, 51, 53, 56, 72, 79, 81, 88, 94.

(塩崎哲哉)

オビジガバチグモ <i>Castianeira shaxianensis</i> Gong 1983	クモ目 ハチグモ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	-----------	----------------	----------------	---------------

5市2町で記録されているが、記録個体数は少なく、生息実態が十分に解明されていない。
【文献】33, 41, 44, 49, 70, 94, 102, 115.

(塩崎哲哉)

アワセグモ <i>Selenopus bursarius</i> Karsch 1879	クモ目 アワセグモ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 NT	環境省 2020 —
--	------------	----------------	----------------	---------------

7市3町で記録されているが、記録個体数は少なく、生息実態のさらなる解明が必要である。
【文献】9, 11, 28, 29, 33, 39, 49, 53, 70, 86, 88, 94, 111, 124.

(塩崎哲哉)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

文 献

- 1 橋本理市. 1961. 伊賀の蜘蛛. 三重生物, (11) : 47-51.
- 2 橋本理市. 1962. 神宮宮域でキジロオヒクグモを採集. いがざさ, (37) : 326.
- 3 橋本理市. 1962. 藤原岳クモ採集記(2). いがざさ, (37) : 327-328.
- 4 橋本理市. 1963. 伊勢神宮々城のクモ類目録資料. 槌賀先生喜寿祝賀会記念文集, pp.45-49. 槌賀記念事業会.
- 5 橋本理市. 1963. 三重大学平倉演習林のクモ(III). ATYPUS, (30) : 21-24.
- 6 橋本理市. 1963. 分布資料. ATYPUS, (31) : 8.
- 7 橋本理市. 1968. 三重大学平倉演習林の真正クモ類目録. 三重大学農学部演習林報告, (2) : 7-12.
- 8 橋本理市. 1978. みんなの科学「網をはらないクモ」の製作に参加して. しのびぐも, (5) : 7-8.
- 9 橋本理市・貝發憲治・熊田憲一・太田定浩. 2016. クモ類. 神宮宮域動物調査報告書, pp.253-287. 神宮司庁営林部.
- 10 橋本理市・貝發憲治・熊田憲一・武藤茂忠・太田定浩・塩崎哲哉. 2012. 三重県宮川水系のクモ類. しのびぐも, (39) : 40-59.
- 11 橋本理市・杉永厚. 1963. 三重県産真正蜘蛛類目録 (予報). 三重生物, (13) : 33-40.
- 12 橋本理市・杉永厚・太田定浩. 1965. 九鬼の真正蜘蛛類. 三重生物, (15) : 46.
- 13 橋本理市 他. 1963. 赤目溪谷蜘蛛採集記(1). いがざさ, (39) : 339-340.
- 14 畑守有紀. 1995. ワスレナグモの体のサイズについての若干の考察. 蜘蛛, (28) : 17-20.
- 15 畑守有紀・新海明・上田俊穂. 1997. クモタケの全国分布調査結果. Kishidaia, (72) : 40-41.
- 16 市橋甫・石田昇三・天春明吉. 1984. 比奈知地域 (三重県名張市) の試堀坑の節足動物. 比奈知ダム周辺昆虫類調査報告書 (各論), pp.203-214. 水資源開発公団比奈知ダム建設所, 名張市.
- 17 稲垣成二. 1994. 湯ノ口周辺のクモ類. くろしお, (13) : 59-60.
- 18 Irie, T. & Ono, H. . 2011. Two new species of the spider genus *Falcileptoneta* (Araneae, Leptonetidae) from Gifu and Mie Prefectures, Honshu, Japan. Bulletin of the National Museum of Nature and Science Tokyo (A) 37 : 73-78.
- 19 貝發憲治. 1975. 三重県南部地方の真正蜘蛛類目録 (追加). しのびぐも, (2) : 12-18.
- 20 貝發憲治. 1973. 三重県南部地方の真正蜘蛛類目録. 三重生物, (23) : 49-64.
- 21 貝發憲治. 1977. 津市及びその周辺のクモ相. しのびぐも, (4) : 19-31.
- 22 貝發憲治. 1979. 私のクモ採集記録より. しのびぐも, (6) : 9-14.
- 23 貝發憲治. 1980. アカマツ人工林におけるクモ相. しのびぐも, (7) : 10-18.
- 24 貝發憲治. 1982. 鷲嶺水穴のクモ. しのびぐも, (9) : 15-16.
- 25 貝發憲治. 1984. シノビグモを求めて. しのびぐも, (11) : 1-3.
- 26 貝發憲治. 1985. クモ採集記録, 少々 (II). しのびぐも, (12) : 17-25.
- 27 貝發憲治. 1985. 大宮町の真正蜘蛛類 (中間報告). しのびぐも, (12) : 1-16.
- 28 貝發憲治. 1984. 名張市比奈知地域の真正蜘蛛類. 比奈知ダム周辺昆虫類調査報告書, pp.215-232. 水資源開発公団比奈知ダム建設所.
- 29 貝發憲治. 1986. 大宮町の真正クモ類(II). しのびぐも, (14) : 1-11.
- 30 貝發憲治. 1993. 大川親雄氏のクモ標本同定結果(IV). しのびぐも, (21) : 12-17.
- 31 貝發憲治. 1995. 松阪・飯多地域の真正クモ類. しのびぐも, (23) : 11-27.
- 32 貝發憲治. 2002. 津市偕楽公園にてキシノウエトタテグモの住居を多数確認. しのびぐも, (29) : 11.
- 33 貝發憲治. 2004. 真正クモ類. 上野市史自然編, pp.616-644. 上野市, 上野.
- 34 貝發憲治. 2013. 未同定クモ類標本の同定結果 (その1). しのびぐも, (40) : 22-30.
- 35 貝發憲治. 2014. 未同定クモ類標本の同定結果 (その2). しのびぐも, (41) : 8-20.
- 36 貝發憲治. 2016. ワスレナグモの発見. しのびぐも, (43) : 7-8.
- 37 貝發憲治. 2019. 三重県松阪市山室町の里山のクモ類. 蜘蛛, (52) : 1637-1645.
- 38 貝發憲治. 2019. 津市美杉町下之川のクモ類. しのびぐも, (46) : 21-22.
- 39 貝發憲治. 2021. 多気町丹生のクモ類. しのびぐも, (48) : 23-27.
- 40 貝發憲治. 2023. 再びワスレナグモ発見の情報あり. しのびぐも, (50) : 3.
- 41 貝發憲治. 2023. 三重県内のクモ類. 三重自然誌, (18) : 6-17.
- 42 貝發憲治. 2024. ブロワーを使い大量のキシノウエトタテグモの住居を発見. しのびぐも, (51) : 10-11.

- 43 貝發憲治・太田定浩. 1991. クモ類. 菰野町史 (自然編), pp.351-354・458-460. 菰野町教育委員会. 菰野町
- 44 貝發憲治・塩崎哲哉. 2012. 津市自然ガイドブック作成にかかる調査で得られたクモ類. 三重自然誌, (13): 52-61.
- 45 金野晋. 1993. 最近採集したクモ数種. くものいと, (12): 12.
- 46 金野晋. 1994. ワスレナグモの記録. くものいと, (15): 20.
- 47 熊田憲一. 2002. 伊賀町山畑のクモ. しのびぐも, (29): 1-5.
- 48 熊田憲一. 2002. 三重で採集したクモ追加. しのびぐも, (29): 6-7.
- 49 熊田憲一. 2001. 三重県で採集したクモ. Kishidaia, (81): 83-107.
- 50 熊田憲一. 2002. 三重県に来て初めて採集したサンロウドヨウグモ. しのびぐも, (29): 8-9.
- 51 熊田憲一. 2003. 三重で採集したクモ追加その2. しのびぐも, (30): 41-42.
- 52 熊田憲一. 2006. 三重県環境保全事業団調査で採集したクモ. しのびぐも, (33): 8-21.
- 53 熊田憲一. 2012. 伊勢神宮のクモ—神宮宮域動物調査から—. しのびぐも, (39): 18-28.
- 54 熊田憲一. 2012. 三重県で採集したクモ 追加その3. しのびぐも, (39): 29-37.
- 55 熊田憲一・貝發憲治. 2014. 2013年三重県RDB調査採集において採集されたクモ 鈴鹿・伊賀編. しのびぐも, (41): 21-32.
- 56 熊田憲一・熊田理恵・貝發憲治. 2010. 亀山市のクモ類. 亀山市史自然編, pp.634-683. 亀山市, 亀山.
- 57 孫福正. 1961. 自宅でクモをとる. 伊勢の自然, 1(1): 30-34.
- 58 孫福正. 1976. 三重県下のキシノウエトタテグモ・キノボリトタテグモ及びワスレナグモの分布について. しのびぐも, (3): 3-4.
- 59 益田和昌. 2000. 東海地方のホラヒメグモ. 蜘蛛, (32/33): 25-26.
- 60 三重クモ談話会. 1986. 大川親雄氏のクモ標本同定結果 (II). しのびぐも, (14): 12-17.
- 61 三重クモ談話会. 1987. 三重クモ談話会採集会報告. しのびぐも, (15): 12-19.
- 62 三重クモ談話会. 1990. 三重クモ談話会採集会報告. しのびぐも, (18): 35-48.
- 63 三重クモ談話会. 1991. 三重クモ談話会採集会報告. しのびぐも, (19): 5-12.
- 64 三重クモ談話会. 1992. 三重クモ談話会採集会報告. しのびぐも, (20): 25-27.
- 65 三重クモ談話会. 1993. 三重クモ談話会採集会報告. しのびぐも, (21): 22-25.
- 66 三重クモ談話会. 1996. 三重クモ談話会採集会報告. しのびぐも, (24): 23-35.
- 67 三重クモ談話会. 1997. 三重クモ談話会採集観察会報告. しのびぐも, (25): 32-40.
- 68 三重クモ談話会. 1998. 三重クモ談話会採集会報告. しのびぐも, (26): 33-48.
- 69 三重クモ談話会. 1999. 三重クモ談話会活動報告. しのびぐも, (27): 19-29.
- 70 三重クモ談話会. 2001. 三重クモ談話会活動報告. しのびぐも, (28): 14-31.
- 71 三重クモ談話会. 2002. 三重クモ談話会活動報告. しのびぐも, (29): 17-34.
- 72 三重クモ談話会. 2003. 三重県嬉野地区の採集記録. しのびぐも, (30): 43-59.
- 73 三重クモ談話会. 2004. 2003年度活動報告. しのびぐも, (31): 13-37.
- 74 三重クモ談話会. 2007. 2006年度活動報告. しのびぐも, (34): 23-40.
- 75 三重クモ談話会. 2009. 2008年度: 中部蜘蛛懇談会・三重クモ談話会合同合宿報告. しのびぐも, (36): 36-40.
- 76 三重クモ談話会. 2010. 2009年度活動報告. しのびぐも, (37): 17-30.
- 77 三重クモ談話会. 2011. 2010年度活動報告. しのびぐも, (38): 32-47.
- 78 三重クモ談話会. 2013. 2012年度活動報告. しのびぐも, (40): 41-65.
- 79 三重クモ談話会. 2014. 2013年度活動報告. しのびぐも, (41): 48-74.
- 80 三重クモ談話会. 2015. 2014年度活動報告. しのびぐも, (42): 18-30.
- 81 三重クモ談話会. 2017. 2016年度活動報告. しのびぐも, (44): 14-39.
- 82 三重生物教育会伊賀支部. 1962. 雑録. いがざさ, (35): 313-314.
- 83 三重生物教育会伊賀支部. 1963. 雑談 野から山から. いがざさ, (39): 344.
- 84 武藤茂忠・太田定浩. 2008. 篠立の風穴の真正クモ類. 第二次篠立の風穴自然科学調査報告書, pp.71-77. 第二次篠立の風穴自然科学調査会, いなべ.
- 85 西川喜朗. 2002. キノボリトタテグモの採集記録. くものいと, (31): 44.
- 86 緒方清人. 2013. 津市鳥居町と分部のクモ類. しのびぐも, (40): 31-36.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 87 Ono, H. . 2008. Five new species of the families Dictynidae, Cybaeidae, Coelotidae and Ctenidae (Arachnida, Araneae) from Japan. Bull. Natn. Mus. Nat. Sci., 34 : 157–171.
- 88 太田定浩. 1963. 鈴鹿山脈を主とした北勢地方の真正蜘蛛類. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp.111–118. 三重県自然科学研究会, 津.
- 89 太田定浩. 1985. 昭和59年度採集会の記録. しのびぐも, (12) : 26–39.
- 90 太田定浩・橋本理市・貝發憲治. 1994. 三重県のクモ類. 三重の生物 (三重生物教育会編), pp.269–276. 三重生物教育会, 四日市.
- 91 太田定浩・貝發憲治. 1981. 尾鷲地方の真正蜘蛛類相. しのびぐも, (8) : 16–34.
- 92 太田定浩・貝發憲治. 1990. 「四日市市史」のクモ類目録を補う. しのびぐも, (18) : 11–33.
- 93 太田定浩・貝發憲治. 2011. 四日市市のクモ類. しのびぐも, (38) : 6–27.
- 94 太田定浩・貝發憲治・熊田憲一・塩崎哲哉・橋本理市・武藤茂忠. 2008. 鈴鹿市のクモ類. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書—. pp.392–427. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
- 95 太田定浩・武藤茂忠. 2012. クモ類. 国指定天然記念物「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」自然科学調査報告書, pp. 205–214. 菰野町教育委員会. 菰野町.
- 96 佐藤亮・矢代学. 1994. クモ目. 淀川水系木津川上流 (木津川・名張川) 陸上昆虫類等調査報告書, II 4–5, II 19–20, III–6, IV–6, 16, 27, 37–38, 63–64, 75–76.
- 97 下市昇一. 1966. 高旗山及び三田神社に生息する真正クモ類. 白鳳, 2 : 4–14.
- 98 新海明. 1994. 紀伊半島熊野市周辺のクモ. しのびぐも, (22) : 1–8.
- 99 新海明. 2007. ワスレナグモの全国分布調査結果. Kishidaia, (92) : 39–52.
- 100 塩崎哲哉. 2002. 紀勢町の真正クモ類. 紀勢町史自然編, pp.397–409. 紀勢町.
- 101 塩崎哲哉. 2003. 三重県熊野市のクモ. しのびぐも, (30) : 14–30.
- 102 塩崎哲哉. 2004. 嬉野町のクモ類. 嬉野史 自然編, pp.107–112, 394–408. 嬉野町役場総務課嬉野町史編纂室, 嬉野.
- 103 塩崎哲哉. 2009. 大台ヶ原のクモ類. 三重自然誌, (12) : 44–51.
- 104 塩崎哲哉. 2015. チビクロドヨウグモの記録. しのびぐも, (42) : 17.
- 105 塩崎哲哉. 2023. 熊野灘島嶼のクモ類. 三重自然誌, (18) : 25–28.
- 106 塩崎哲哉. 2023. 三重県御浜町のクモ. しのびぐも, (50) : 16–35.
- 107 塩崎哲哉・橋本理市・武藤茂忠・貝發憲治・熊田憲一・加藤修朗. 2019. 四日市市曾井町 神前丘陵里山のクモ～2018年度三重クモ談話会採集観察会採集品目録～. しのびぐも, (46) : 23–35.
- 108 塩崎哲哉・貝發憲治. 2012. 鳥羽市神島のクモ類. 三重自然誌, (13) : 21–24.
- 109 塩崎哲哉・貝發憲治. 2019. 2018年度合同合宿 (答志島) 採集品目録. しのびぐも, (46) : 36–38.
- 110 塩崎哲哉・貝發憲治・熊田憲一・加藤修朗・萩野典子・板倉泰弘. 2024. 2023年度三重クモ談話会採集会 採集品目録. しのびぐも, (51) : 50–62.
- 111 塩崎哲哉・貝發憲治・熊田憲一・加藤修朗・板倉泰弘. 2023. 2022年度三重クモ談話会採集会 採集品目録. しのびぐも, (50) : 36–50.
- 112 塩崎哲哉・貝發憲治・熊田憲一・加藤修朗. 2024. 三重県RDB2025にかかる調査で得られたクモ. しのびぐも, (51) : 36–49.
- 113 塩崎哲哉・武藤茂忠・貝發憲治・熊田憲一・加藤修朗. 2020. 御浜町阪本の里山のクモ～2019年度三重クモ談話会採集会採集品目録～. しのびぐも, (47) : 18–29.
- 114 塩崎哲哉・武藤茂忠・貝發憲治・熊田憲一・加藤修朗. 2022. 2021年度三重クモ談話会採集会 採集品目録. しのびぐも, (49) : 65–76.
- 115 塩崎哲哉・太田定浩・橋本理市・貝發憲治・熊田憲一. 2018. 志摩市磯部町五知の里山のクモ～2017年度三重クモ談話会採集観察会採集品目録～. しのびぐも, (45) : 25–42.
- 116 須賀瑛文. 1987. 三重県のトタテグモ類について(I). しのびぐも, (15) : 5–6.
- 117 須賀瑛文. 1987. 三重県のキジロオヒキグモの新産地. 蜘蛛, (21) : 152.
- 118 Tanikawa, A. 1994. A new species of the spider genus *Meta* C. L. Koch, 1836 (Araneae: Tetragnathidae) from Japan. Acta Arachnologica, 43(1) : 65–69.
- 119 垂水有三. 1981. ホラヒメグモに関して—Part 1—ホラヒメグモの飼育法及び既知種の新分布. ATYPUS, (78) : 13–16.
- 120 鳥羽高校生物同好会. 1981. 志摩地方の真正クモ類. しのびぐも, (8) : 1–15.

- 121 徳本洋. 1995. 松阪市櫛田川で採集された真正クモ類. *しのびぐも*, (23) : 28–34.
- 122 徳本洋. 2009. 三重県鈴鹿川のクモ. *しのびぐも*, (36) : 17–27.
- 123 津市. 2014. クモ類〔移動〕. 平成25年度 津市新最終処分場等施設整備に係る環境影響評価事後調査報告書, pp.7.4–1~7.4–11. 株式会社西日本技術コンサルタント, 津市.
- 124 槌賀安平. 1938. 伊勢神宮々域の蜘蛛類. *Acta Arachnologica*, 3(2) : 59–64.
- 125 八木沼健夫. 1952. 北山峡の蜘蛛. *ATYPUS*, (1) : 13–20.
- 126 八木沼健夫. 1953. カネコトタテグモの新産地 (三重県). *ATYPUS*, (2) : 23.
- 127 八木沼健夫. 1963. 分布資料. *ATYPUS*, (31) : 8.
- 128 八木沼健夫. 1967. 蜘蛛の三新種—*Argiope, Boethus, Cispius*—. *Acta Arachnologica*, 20(2) : 50–64.
- 129 八木沼健夫. 1979. A Study of the Japanese Species of Nesticid Spiders. 追手門学院大学文学部紀要, (13) : 255–287.
- 130 八木沼健夫. 1980. A New Spider, *Nesticus shureiensis* from Mie Pref., Central Japan. *JOURNAL OF THE SPELEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN*, 5 : 34–37.
- 131 八木沼健夫. 1980. 日本産 *Nesticus* 属の研究 (補遺). 追手門学院大学紀要, (14) : 224.
- 132 八木沼健夫. 1983. 三重県のおもなクモ数種について. *しのびぐも*, (10) : 5–9.
- 133 八木沼健夫・新海栄一. 1972. 分布資料. *ATYPUS*, (58) : 43–44.
- 134 八木沼健夫・新海栄一. 1979. 分布資料. *ATYPUS*, (74) : 51–52.
- Yoshida, H. . 2001. A revision of the Japanese genera and species of the subfamily Theridiinae (Araneae: Theridiidae). *Acta Arachnologica*, 50(2) : 157–181.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD